

□12月29日礼拝説教(隅野徹牧師)短縮版

「強く雄々しい主イエス」(詩編124:1~8)

本日の箇所でも注目すべき言葉は8節です。「栄光に輝く王」、それは人間の王ではなく、主なる神ご自身だということなのです。栄光に輝く王としてこの世に来られる主なる神は、強く雄々しい方であって、勇ましく戦うと詠われます。

この詩が詠われてから数百年もの時が流れ、イエス・キリストがお生まれになりました。イエス・キリストは、人間が思い描くような栄光に輝く方ではありませんでした。生まれた時もそうです。王の城に生まれたわけではなく家畜小屋に生まれ、家畜が草を食べる飼料桶に寝かされました。育てられたのも、大工の仕事をするごく一般の家庭でした。だから人々は主イエスが、神の子であり王であり救い主であると、なかなか気づけなかったのです。

8節が預言的に示している、強く雄々しい、そして勇ましく戦う王なる主は、軍事力にたより圧倒的な力を誇るこの世の王のことでもちろんありません。イエス・キリストの強さ・雄々しさとは何かというと、相手を徹底的に愛される、その愛の大きさと深さだと理解します。また勇ましく戦われるお方も詠われていますが、それは人間を力で打ち負かすものではありません。そうではなくて、この世にはびこり人間を滅びに至らせる悪に対して、勇ましく戦われるお方なのだということなのです。

すべての人間が創造主である神の御心に従って歩めるように、そして周囲の人を愛する憐れみ深い人になるように、主イエスは強く雄々しく悪と戦って下さるお方なのです。それはなによりも十字架と復活にあらわれています。年の最後に私たちは今一度、イエス・キリストがその生涯を通して表して下さったもの、教えてくださったものが何であるのかを心にとめましょう。(終)